

P25c **IC1396 領域の大規模 T タウリ型星探査**

仲野誠 (大分大学)、杉谷光司 (名古屋市立大学)、福田尚也 (岡山理科大学)、渡辺誠 (国立天文台)

IC1396 は 750pc と比較的近距离にあるリング状の巨大 HII 領域で、その主たる励起星である O6 型星は Cep OB2 アソシエーションのサブグループでもある年齢が 3–5Myr の星団 Trumpler37 に属している。また HII 領域の周囲には多くのブライトリム分子雲が見られる。

我々はハワイ大学 2.2m 望遠鏡に搭載されたグリズム分光器 WFGS2 を用いて IC1396 全面にわたる観測を実施している。既に IC1396 の主要部分である約 5 平方度をカバーする 136 視野のスリットレス分光および i'-band での測光観測を終了した。それを元に H α 輝線星 (T タウリ型星) の検出を進めたところ、まだ解析途上ではあるが、現在までに次のようなことが示唆された。

1) IC1396 の主励起星の周囲にはかなり密に T タウリ型星が分布し、その周囲には若干密度は低い T タウリ型星が広がって分布する。2) 励起星から離れると一旦は T タウリ型星の数は減少するが、3) 周囲のいくつかのブライトリム分子雲付近ではまた増加が見られる。

IC1396 においても他のブライトリム雲に見られるようなトリガーによる最近の星形成活動が確認できる。今回はそれに加え、W5E 領域において我々が示唆したように (Nakano et al. 2008, PASJ, 60, 739) 中心部にも低質量星メンバーが存在しており、その広がったメンバーはそれよりも比較的古い星である可能性が高い。つまり、IC1396 の OB クラスターの小質量星メンバーも一時期に同時に生まれたのではなく、時間をかけて誕生した可能性がある。このことは OB クラスターが時間をかけて誕生することを支持するものと考えられる。